

過去の災害を復元する

防災科学技術研究所 自然災害情報室(DIL) 堀田弥生・内山庄一郎・鈴木比奈子

■自然災害情報室の取り組み

自然災害情報室（NIED-DIL）は、自然災害、防災に関する資料を収集・発信しています。前身の資料調査室は研究所設立 1 年後の 1964 年に開設され、今年で 49 年を迎えます。災害資料のアーカイブと解析を行う研究部門の「自然災害情報室（NIED-DIL）」と、図書部門の「防災科学技術研究所ライブラリー（NIED-Library）」で構成されています。

□災害資料の活用

災害の記憶を地域の防災に活かすには、過去に起きた自然災害の様子や人々が辿った復興の過程を知ることが手掛かりとなります。これを実現するため、自然災害情報室では災害資料から過去の自然災害を復元する研究を行っています。また、稀少な災害資料を後世に遺すため、長期的・継続的なアーカイブを行っています。

■災害資料の収集

- ・災害に関する知識の蓄積
- ・災害資料の所在のノウハウ

■防災科研ライブラリー

- ・収集資料の整理、保管
- ・災害についての問い合わせへの対応

■災害事例の解説

- ・過去の大災害特集
- ・防災基礎講座
- ・メールマガジン



▲防災基礎講座



▲1959 年伊勢湾台風 50 周年企画展

■災害事例の収集

- ・全国網羅的なデータ収集
- ・地図と年表を組み合わせたデータベースの視覚化

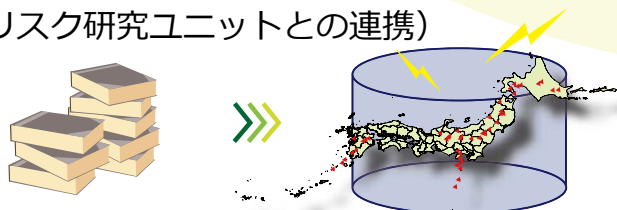
過去の自然災害の復元
過去の災害を知らずして
地域の減災は可能か？

災害資料を解析し
災害脆弱性を明らかにする

■他プロジェクトとの連携研究

□災害事例データベースの構築

過去の自然災害を知ること、地域の災害脆弱性を把握し、今後の対策を立案する上で欠かせない。歴史時代の自然災害を含む日本全国のデータベースを構築し、相互運用可能な API を通して配信することで地域の防災力向上を目指す。（災害リスク研究ユニットとの連携）



□火山ハザードマップデータベースの構築

火山防災のための基礎資料として、日本の全活火山ハザードマップを収集（日本火山学会、地震・火山観測領域（防災科研）との連携）



▲火山ハザードマップデータベース
<http://dil-opac.bosai.go.jp/documents/v-hazard/index.html>

■災害資料の調査

【2011 年東日本大震災】

- ・被災地域の現地調査
- ・過去の津波災害との比較

【1923 年関東大震災】

- ・所蔵写真のデジタル化
- ・被災場所の現状調査
- ・被害解説
- ・新資料発見、解析



▲1923 年関東大震災後の斜面崩壊と津波被災後の様子



▲2012 年現在の様子
神奈川県鎌倉市由比ヶ浜



▲1923 年関東大震災企画展